

申請先: 財団法人全国地域情報化推進協会 事務局

「BPM製品 PF準拠確認チェックリスト

APPLIC 登録番号: ★APPLICで記載

※赤字部分は、V2.2からV2.4の変更箇所、青字部分は、V2.4からV2.5の変更部分をしめす。

(1) 対象標準とバージョン

APPLIC-0010-2010
・プラットフォーム通信標準仕様V2.1 ・アーキテクチャ標準仕様V2.1

(2) PF準拠確認対象製品やシステムの情報と連絡先

(a) 申請日(西暦年月日):

(b) 申請区分(新規、修正、破棄):

(c) 申請者
 団体名: ★識別キー項目1
 団体のURL: (識別キー項目3つで
 APPLIC会員番号: ユニークになるように
 申請者が指定する)

(d) 製品情報
 製品説明のURL: ★識別キー項目2
 代表製品名:
 複数製品で構成する場合追記:
 複数製品で構成する場合追記:
 複数製品で構成する場合追記:
 製品識別情報(バージョン等): ★識別キー項目3
 リリース日(予定)(西暦年月日):
 対応OS:
 製品の形態((1)型から(3)型):

全て同一提供者
(PF通信内部実装型)

BPM製品
(サービスIF処理)
(PF通信処理)

(1)型

全て同一提供者
(製品分離型)

BPM製品
(サービスIF処理)
PF通信製品

(2)型

Y社製品を
前提製品として申請

BPM製品
(サービスIF処理)
Y社PF通信製品

(3)型

前提となるPF通信製品
 前提PF通信製品名: ※1
 前提PF通信製品名: ※1

※1 (2)型、(3)型の場合、既に、準拠登録申請してあるPF通信機能を実装する製品名を記載する。

(3) PF準拠確認チェック項目(準拠ルール)

※: 下記の機能が実装された製品でなく、ソリューションによる提供場合、「前提事項や制限事項」の欄にそのことを記載すること
 ◎: 対応、○: 制約のあるもの(制約がある場合は備考欄に記載する) ↓

番号	準拠ルール (番号(CS-RXXXXX)は、サービス基盤標準書に記載のある関連準拠ルールの番号)	必須/ 選択	サイト内・外共通	
			製品・ システム 確認	APPLIC 確認欄
1	「PF通信(PF通信機能)」製品 PF準拠確認チェックリストにおける準拠ルールを満たす	必須	◎	
1-1	HTTP通信(IPv4、HTTP1.1)を行えること (CS-R020001、CS-R020002)	必須	◎	
1-2	SOAP通信(SOAP1.1、document/literal、WS-リネックアップロファイル1.0)を行えること (CS-R020003、CS-R020004)	必須	◎	
1-3	標準仕様書で定義するXMLインスタンスの形式に対応できること (CS-R032001)	必須	◎	
1-4	標準仕様書で定義するサービスインタフェース定義に対応できること (CS-R032003)	必須	◎	
1-5	標準仕様書で定義するメッセージ交換パターンに対応できること (CS-R060001~CS-R060005、CS-R060006、CS-R060007、CS-R060009)	必須	◎	

【付録3】

地域情報プラットフォーム準拠確認チェックリスト:「サービス基盤」

2	プラットフォーム通信標準仕様第4章「プラットフォーム通信標準のビジネスプロセス制御定義仕様」における機能要件を満たす。	必須	◎	
2-1	BPM機能は、WS-BPELに準拠した以下の機能要件を満たすこと ・WS-BPEL V2.0に準拠していること (CS-R040001) ・サービス呼出I/Fに関するreceive、reply、invoke (CS-R040003) ・実行制御に関するsequence、flow、if、while (CS-R040004) (ただし、V1.0の場合は、linkがあるflowは対応できなくてもよい) ・throw (CS-R040005) ・変数処理に関するassign (CS-R040006) ・fault Handler (CS-R040007) ・コリレーションセット (CS-R040008) ・XMLの部分データを変数に割り当てるためのXpath 1.0 (CS-R040010)	必須	◎	
備考欄(前提事項や制限事項)				